

# 大阪市立住吉川小学校 平成 27 年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

## 1 学校運営の中期目標

### 現状と課題

- 言語力（特に「読むこと」）の学力向上が必要である。（平成 25 年度全国学力・学習状況調査や「大阪市のしんだん」などの結果から）
- 「自尊感情・規範意識」の育成に課題がある。（日常生活や児童アンケートなどから）
- 「体力合計点」を全国平均に近づける体力向上が必要である。（平成 25 年度全国体力運動能力・運動習慣調査の結果から）
- 学力向上の基盤となる生活体験が不十分で、人間関係が希薄な児童が少なくない。（日々の学校生活、授業づくりなどから）

### 中期目標

#### 【学力の向上】（カリキュラム改革関連）

- 読み書きの技能を向上させ、正確に人に伝えられる適切なコミュニケーション能力を育成する。
  - ・ 平成 28 年度の全国学力・学習状況調査における「読むこと」に関する項目の平均正答率を、平成 24 年度より 10 パーセント向上させる。
  - ・ 平成 28 年度の国語科「しんだん」における「読むこと」に関する項目の平均正答率を、平成 24 年度より 10 パーセント向上させる。
  - ・ 平成 28 年度の全国学力・学習状況調査における無答率を、2 パーセントに減少させる。
  - ・ 平成 28 年度の国語科「しんだん」における無答率を、2 パーセントに減少させる。
  - ・ 校内の児童アンケートで「自分の考えを積極的に発表すること」「自分の考えや出来事をわかりやすく書くこと」を（できる・どちらかというとできる）と感じる児童数を 70 パーセントに向上させる。
- 読書に親しみ、ことばを豊かにする。
  - ・ 児童の年間読書量を平成 24 年度より、20 パーセント増やす。

#### 【道徳心・社会性の育成】（カリキュラム改革関連）

- 自尊感情と規範意識を高める。
  - ・ 平成 28 年度の全国学力・学習状況調査における「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を平成 24 年度より 10% 向上させる。
  - ・ 平成 28 年度に実施する「学校のやくそく」に関する調査における児童の割合を 90% 以上にする。
    - ☆ 「すんでもいいさつをする」で「できている」と答える児童の割合。
    - ☆ 「ルールやマナーを守れた」と答える児童の割合。

#### 【健康・体力の保持増進】（カリキュラム改革関連）

- 体力を向上し、健康的な生活を送るように意識づける。
  - ・ 新体力テストの結果を、「全国体力運動能力・運動習慣調査」検証シートで分析し、「体力合計点」を全国平均に近づける。
  - ・ 生活習慣アンケートの結果から、生活習慣が向上した児童の割合を 3 年間で平成 24 年度の水準より 10% 上回る。

#### 【多様な体験学習の充実】（カリキュラム改革・グローバル化改革・学校サポート改革）

- 参加体験型学習を多く取り入れ、児童の人間性を豊かにする。
  - ・ 授業アンケートを実施し、「参加体験型学習によって自分の生活や成長に役立った。」の項目が 90% 以上にする。  
※ 参加体験学習は、校外学習の他、ソーシャルスキルやピアサポートも含む。

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標

### 【学力の向上】 (カリキュラム改革関連)

○「読むこと」を楽しみ、豊かに表現できる子どもを育てる。

取組内容 国語科を中心に言語力を育成する授業改革に取り組む。

指標 ・校内国語アンケート「国語の学習はすきですか」の項目において、「すき」「どちらかというとすき」と答える児童比率を、年度当初より 5%向上させる。

・平成 27 年度「しんだん」の無答率を、平成 27 年度より 2 ポイント減少させる。

・平成 27 年度「しんだん」の「言語事項」について、本校平均正答率とし平均との差を、前年度より縮める。

・児童の年間読書量を平成 26 年度より 5%向上させる。

### 【道徳心・社会性の育成】 (カリキュラム改革関連)

○自尊感情を高める。

取組内容 ピアサポートを学校行事や学級経営に取り入れる

指標 ・校内の児童アンケートで「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について(あてはまる・どちらかというとあてはまる)と答える児童の割合を 75%以上にする。

○規範意識を育てる。

取組内容 「オアシス運動」を充実させる。

指標 ・校内の児童アンケートで「学校の約束」について、次の項目で(できている・どちらかというとできている)と答える児童の割合を 80%以上にする。

「自分から進んで挨拶をしている」 H26 72%から 8%上回る。

「学校のルールやマナーを守っている」 H26 74%から 6%上回る。

### 【健康・体力の保持増進】 (カリキュラム改革関連)

○体力の向上を図る。

取組内容 広い運動場を生かして運動を楽しむ児童を育てる。

指標 ・新体力テストの結果を全国体力運動能力・運動習慣等調査の検証シートで分析し、「体力合計点」を平成 26 年度より上回るようにする。

○健康の保持増進を図る。

取組内容 健康週間・安全週間を充実させ、健康な生活の習慣化を図る。

指標 ・校内の児童アンケートで、次の項目で(当てはまる・どちらかといえば当てはまる)と回答する児童の割合を全学年で平成 24 年度を上回るようにする。

「手洗いやうがいをしていますか」(平成 24 年度 73%)

「ハンカチやティッシュを学校にもってきていますか」(平成 24 年度 77%)

### 【多様な体験学習の充実】 (カリキュラム改革・グローバル化改革・学校サポート改革)

○参加体験型学習を多く取り入れ、児童の学びを豊かにする。

取組内容 英語活動・芸術鑑賞・社会見学などについて計画・実行・評価・改善と PDCA マネジメントサイクルで検証し充実を図る。(特に子どもの実態に応じた事前の計画と事後の振り返りを充実させる。また、前期・後期だけでなく、参加体験学習の中の一つからもアンケートを取る。)

指標 ・校内の児童アンケートを実施し「参加体験型学習によって自分の学びや成長に役立った」の項目で、(あてはまる・どちらかといえばあてはまる)の回答を児童 85%以上、保護者 90%以上にする。

### 3 本年度の自己評価結果の総括

#### 1 学力の向上について

「読解力で自信とやる気を！」「ケアとエンパワメント！」で教職員一丸となって学力獲得・学力保障の授業改善に取り組んでいる。本年度も「全員研究授業」という市教育センターの指導支援があり、全学年国語科の読解力を育成する校内研修を展開してきた。「どの子も参加し、わかる・できる」ユニバーサルデザインの考え方や、「単元を貫く言語活動」などアクティブ・ラーニングにつながる考え方を日々の授業改善に取り入れてきた。さらに、「国語好きの子どもを育てる」ために国語学習イベントを年間通して実施してきた。「めざせ読書大好きっ子プロジェクト」「めざせ漢字大好きっ子プロジェクト(校内漢字検定)」などは、子どもたちに好評で定着している。これらの成果は住之江区教員発表会(1月27日)に実践報告をしてきたところである。

子どもの学習意欲の高まり、学びからの逃避を克服する指標として「大阪市のしんだん・国語」(2月実施)で無答率の減少を表に整理した。

平成26年度	無答率%	平成27年度	無答率%
3年生	12.4	4年生	9.8
4年生	14.0	5年生	6.9
5年生	8.3	6年生	4.8

「国語の勉強いやや」「何も書くことがない」などのネガティブな意識が、「手応え感覚」「ポジティブ感情」に変わりつつある。

#### 2 道徳心・社会性の育成について

ピアサポートの取り組みについては、毎週水曜日のニコニコタイム(児童集会)で異学年の集団活動を実施している。また、就学時健康診断では高学年児童が新一年生を学校案内するようにしている。その他の学校行事でも異学年交流の支えあいや認めあいを重視している。いずれも良好な関係ができているが、アンケート結果からは自尊感情育成の目標には達していない。

しかし、子どもの実際の行動は育ちつつある。挨拶週間後も6年生有志が「あいさつ運動」を自主的に実施している。5年生は就学時健康診断で新1年生をサポートした後の満足感や達成感を笑顔で表現している。事後のリフレクションで充実感や自己有能感などを表現できるアンケートの開発を進めていく。

#### 3 健康・体力の保持増進について

全国体力・運動習慣調査では、全国平均を上回る結果であった。また、「なわとび週間」「体力づくり週間」では、週間後も子どもの学校生活に定着し習慣化している。

保健指導については、委員会活動を中心に「手洗い・うがい」「ハンカチ・ティッシュ」等の意識強化と日常化に取り組んでいるところである。しかし、アンケート結果からは意識差が大きく、課題が多い。

#### 4 多様な体験学習の充実について

社会見学などの保護者負担費用を減らすために、校長経営戦略予算で体験学習を実施できるようにしている。子どもの感動体験を重視し候補地等の再検討からはじめている。実施については、P D C Aサイクルによるカリキュラムマネジメントを取り入れ、効果検証を試みている。現地で子どもの言動の受けとめる参与観察、アンケートによる子ども自身の振り返り学習からフォーカスインタビューなど、体験学習の指導支援の質の向上が課題である。これまでの生活科・社会科・総合的な学習の時間などの体験学習は「活動あって学びなし」などと揶揄されてきた。知識や技能の定着を高める事前・事後指導、個々の見方や考え方を協働学習で高めたり深めたりする指導支援の在り方が問われている。

次期学習指導要領改訂の肝要であるアクティブ・ラーニング(深い学び・対話のある学び・主体的な学び)を指導できる教職員の資質向上、児童理解を深める研修などをO J Tで推進していく。